

## 脳卒中発症登録事業状況

県内の医療機関から提供された脳卒中患者（死亡を含む。）の発症登録の状況は次のとおりである。

ここでは脳卒中登録様式 1 号に基づき情報提供された脳卒中患者情報のうち、平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日までの発症として登録したものについて扱う。（表中の率【％】については小数点以下第 2 位を四捨五入した値、図中の率【％】については小数点以下第 1 位を四捨五入した値を示した。）

※平成 23 年 10 月 1 日に施行された旧西方町の栃木市合併に伴い、平成 23 年 10 月 1 日以降に登録された情報（医療機関所在地及び患者住所地）については、合併後の情報とした。

### 1 医療機関所在地別報告状況

協力医療機関の所在地により区分した場合の報告状況である。

	協力医療機関数	発症登録のべ件数	うち死亡件数
宇都宮市	5	1,092	59
県西健康福祉センター	6	442	67
県東健康福祉センター	4	380	63
県南健康福祉センター	8	1,076	109
県北健康福祉センター	5	441	71
安足健康福祉センター	2	435	58
合計	30	3,866	427
急性期医療機関	8	1,552	127
急性期及び回復期医療機関	8	1,619	225
回復期医療機関	10	591	55
それ以外の医療機関	4	104	20

### 2 患者住所地別報告状況

登録された患者の住所により区分した場合の報告状況である。

	協力医療機関数	発症登録のべ件数	うち死亡件数
宇都宮市	17	882	49
県西健康福祉センター	18	541	65
県東健康福祉センター	14	436	67
県南健康福祉センター	20	884	103
県北健康福祉センター	13	695	88
安足健康福祉センター	7	428	55
合計	—	3,866	427

## 3 病型別・初発再発別登録状況

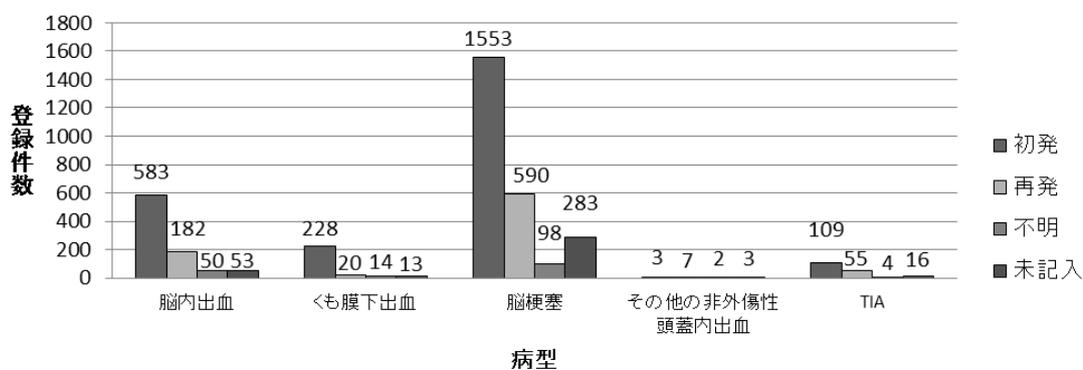
病型別の登録状況では、脳梗塞の診断が最も多く 2,524 件 (65.3%)、次いで脳内出血 868 件 (22.5%)、くも膜下出血 275 件 (7.1%) であった。初発再発別の登録状況では、初発の診断が 2,476 件 (64.0%)、再発が 854 件 (22.1%)、不明が 168 件 (4.3%)、未記入が 368 件 (9.5%) であった (表 1・図 1)。

全登録に占める再発率は、脳梗塞で 23.4% (590/2,524 件)、脳内出血で 21.0% (182/868 件)、くも膜下出血で 7.3% (20/275 件) であった。

表 1 病型別初発再発別登録件数

診断病型	初発	再発	不明	未記入	登録数
脳内出血	583	182	50	53	868
くも膜下出血	228	20	14	13	275
脳梗塞合計	1553	590	98	283	2524
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	541	215	25	98	879
脳梗塞-心原性脳梗塞	328	148	45	63	584
脳梗塞-ラクナ梗塞	322	128	8	46	504
脳梗塞-その他の脳梗塞	215	64	19	29	327
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	65	15		1	81
脳梗塞-未記入	82	20	1	46	149
その他の非外傷性頭蓋内出血	3	7	2	3	15
TIA	109	55	4	16	184
総計	2476	854	168	368	3866

図 1 病型別初発再発別登録件数



4 性別・年齢階級別登録状況

1) 性別・年齢階級別登録状況

年齢階級別では、男は70歳代、女は80歳代の登録件数が最多であった(図2)。

女は、男に比べ高年齢の割合が多く、90歳以上が1割を占めた(図3・4)。

図2 性別年齢階級別登録件数

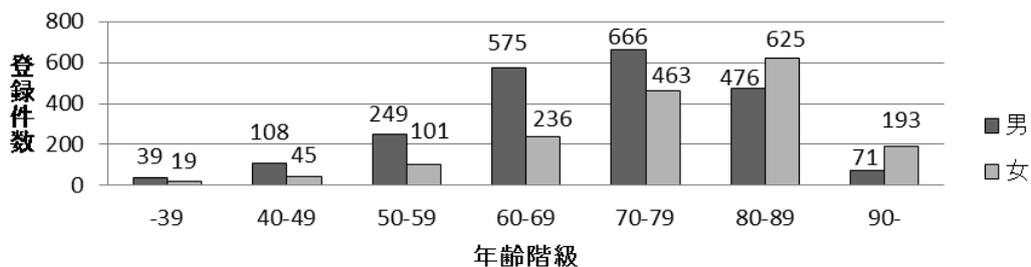


図3 年齢階級別の登録者の構成

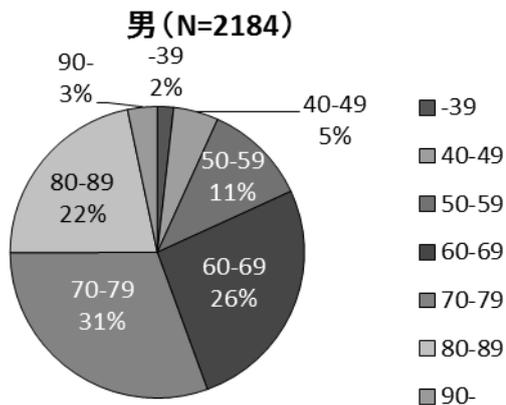
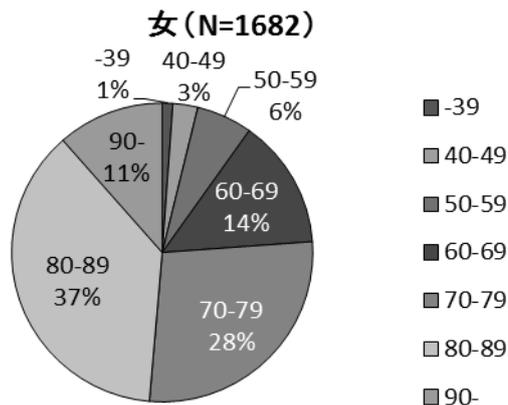


図4 年齢階級別の登録者の構成



## 2) 病型別・初発再発別・性別・年齢階級別登録状況

## (1) 脳内出血

初発では、男は60歳代、女は80歳代が最多であった(図5)。

再発では、男は70歳代で多く、女は80歳代が最多であった(図6)。

図5 性別年齢階級別登録件数(脳内出血 初発)

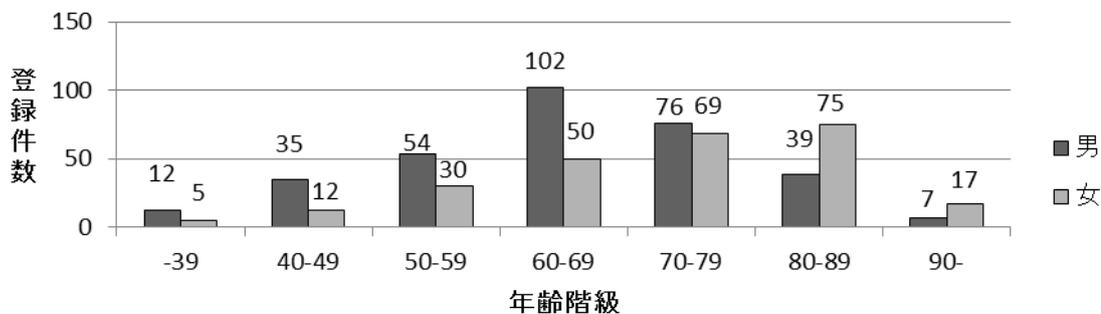
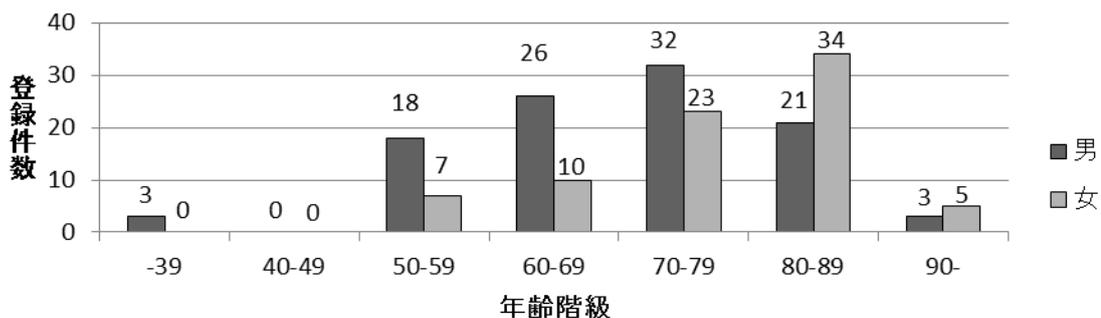


図6 性別年齢階級別登録件数(脳内出血 再発)



## (2) くも膜下出血

初発では、男は40~69歳で多く、女は70歳代が多かった(図7)。

再発は、全体に報告数が少なく、女は60~89歳が多かった(図8)。

図7 性別年齢階級別登録件数(くも膜下出血 初発)

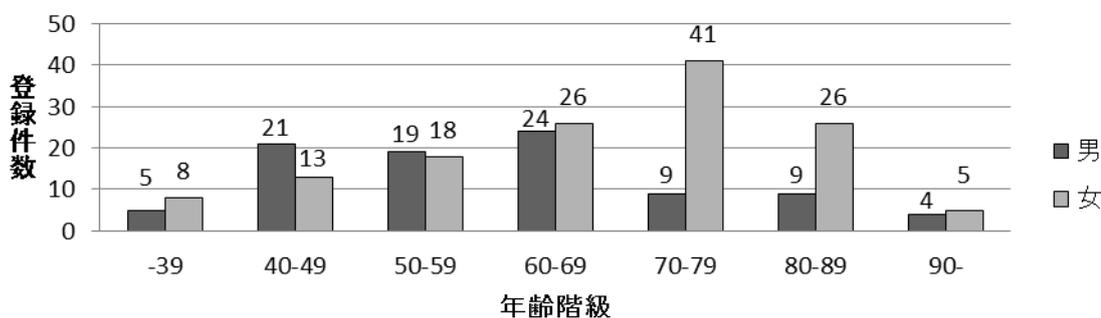
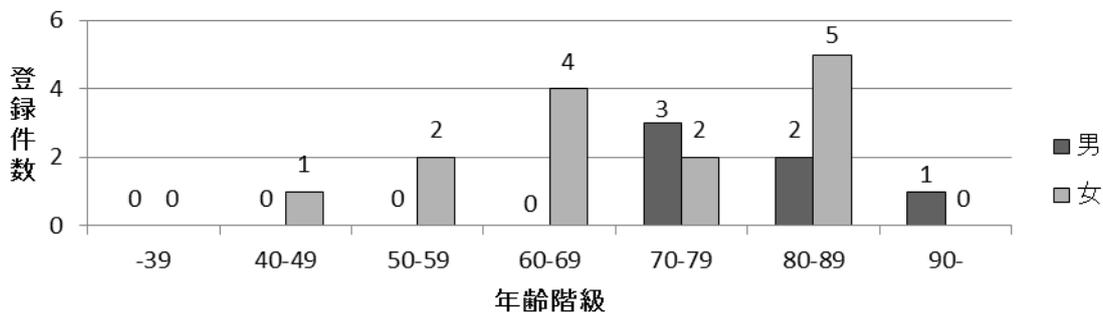


図8 性別年齢階級別登録件数(くも膜下出血 再発)



## (3) 脳梗塞

## ① 脳梗塞合計\*

\*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

男は、初発・再発ともに70歳代が最も多く、女は80歳代が多かった(図9・10)。

図9 性別年齢階級別登録件数(脳梗塞合計 初発)

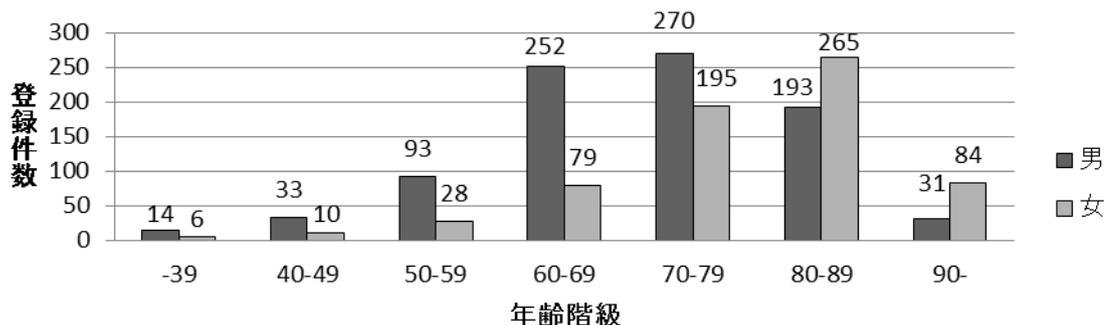
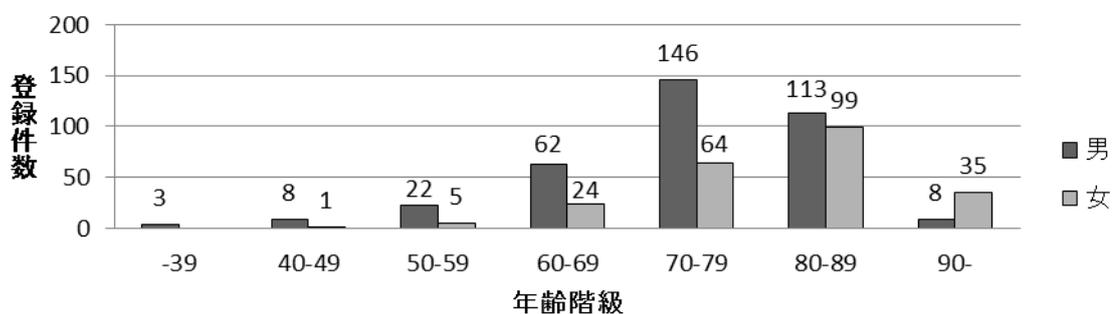


図10 性別年齢階級別登録件数(脳梗塞合計 再発)



## ②アテローム血栓性梗塞

初発の男は60～79歳、女は80歳代が最多であり（図11）、再発の男は70歳代、女は80歳代で最多だった（図12）。

図11 性別年齢階級別登録件数(アテローム血栓性脳梗塞 初発)

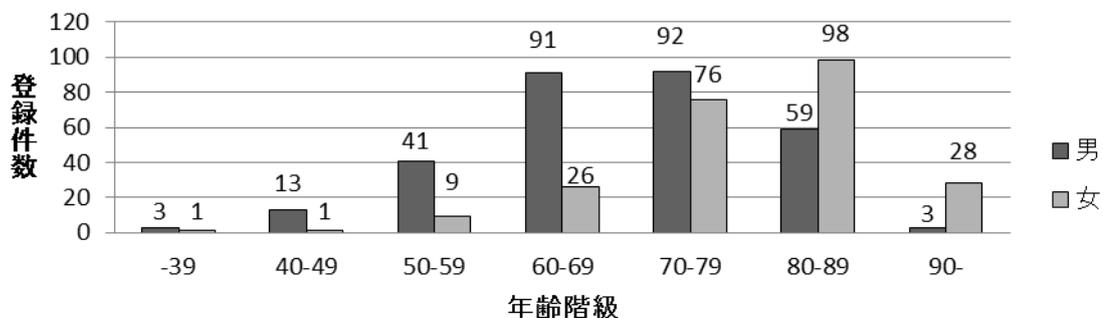
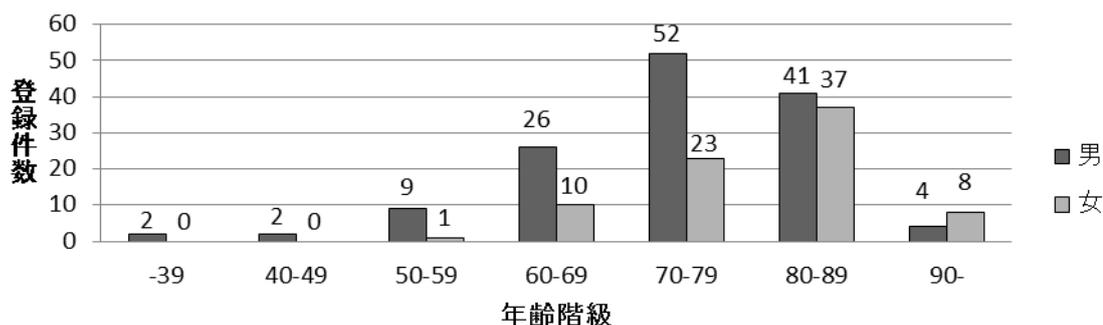


図12 性別年齢階級別登録件数(アテローム血栓性脳梗塞 再発)



## ③心原性脳梗塞

初発・再発ともに男は70歳代、女は80歳代が最も多かった（図13・14）。

図13 性別年齢階級別登録件数(心原性脳梗塞 初発)

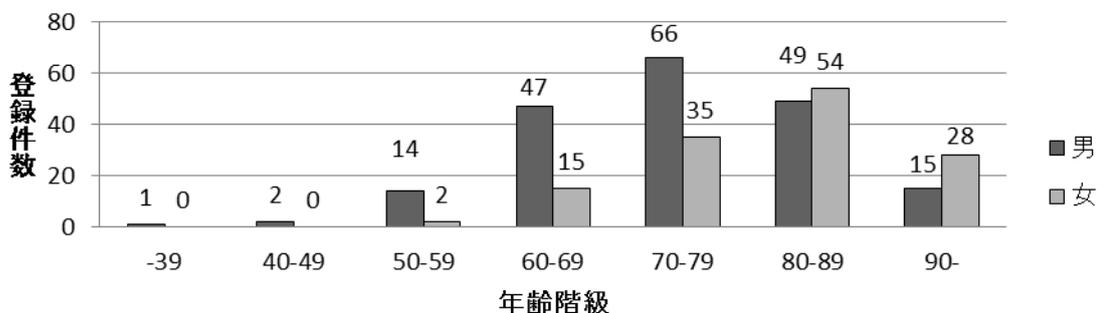
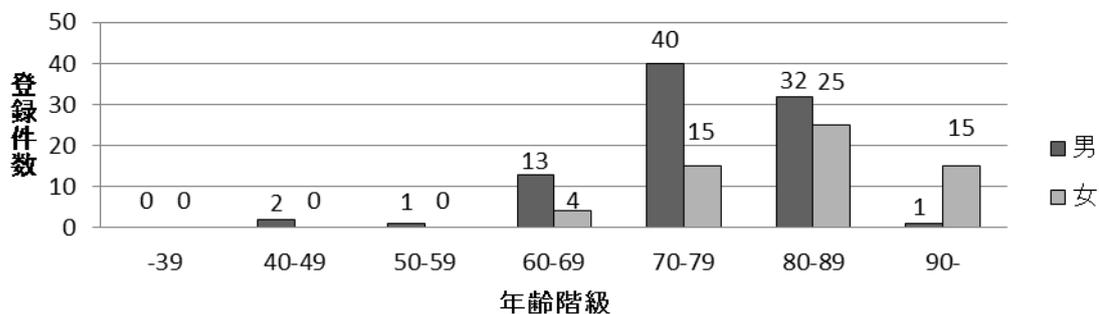


図14 性別年齢階級別登録件数(心原性脳梗塞 再発)



## ④ラクナ梗塞

初発の男は60～79歳、女は80歳代が最も多かった(図15)。

再発は、男女ともに70歳代が最も多かった(図16)

図15 性別年齢階級別登録件数(ラクナ梗塞 初発)

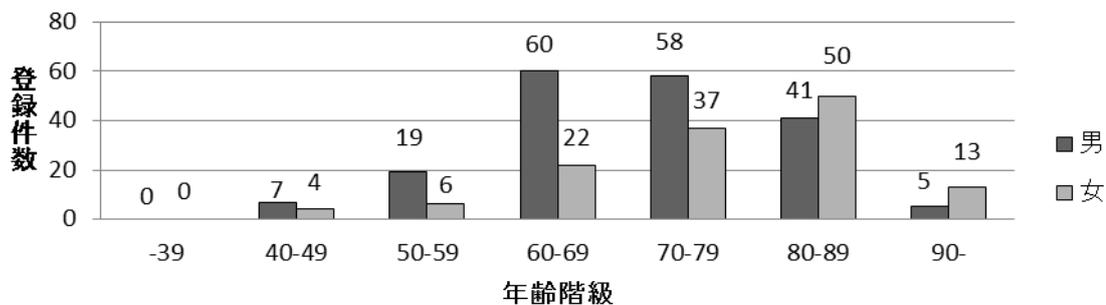
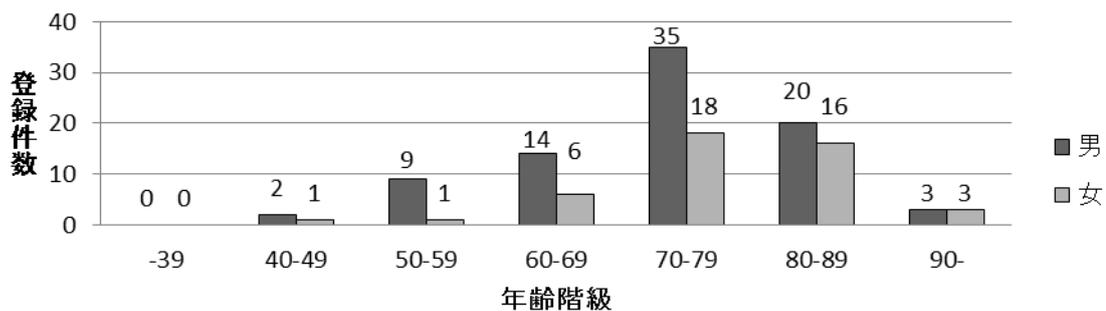


図16 性別年齢階級別登録件数(ラクナ梗塞 再発)



## (4)TIA

男性は初発・再発ともに、60～89歳代が最も多く、女性は初発が80歳代、再発が70～89歳で多かった(図17・18)。

図17 性別年齢階級別登録件数(TIA 初発)

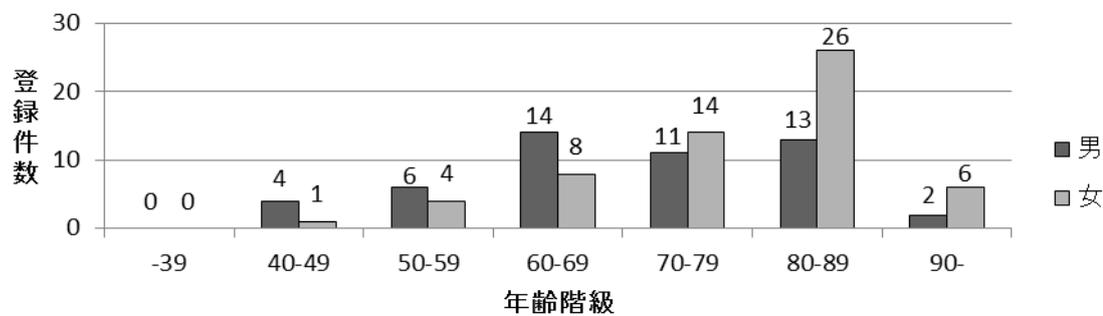
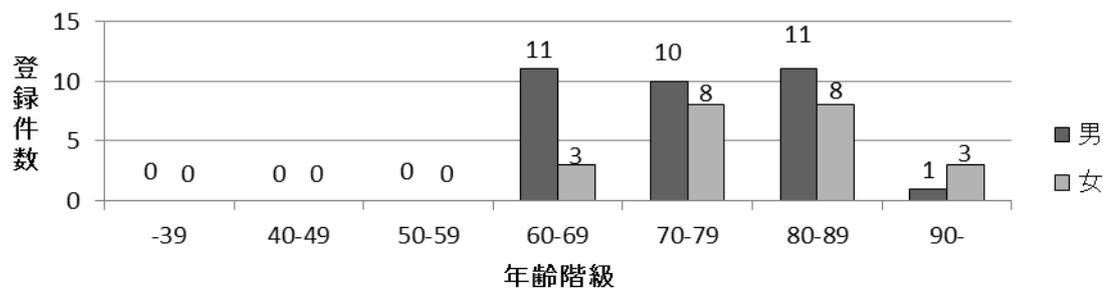


図18 性別年齢階級別登録件数(TIA 再発)



## 5 患者の受診状況

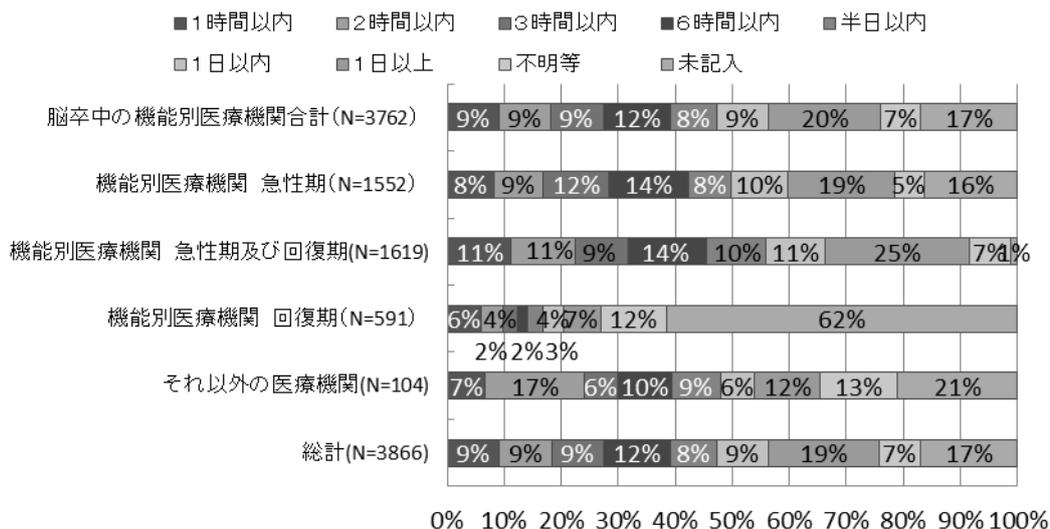
## 1) 受診までの経過時間

## (1) 受診までの経過時間（機能別医療機関別）

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、全医療機関で27.4%、脳卒中の機能別医療機関では27.3%、それ以外の医療機関では29.8%だった。機能別医療機関のうち、急性期治療を担う医療機関\*では30.1%だった（図19）。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図19 受診までの経過時間(機能別医療機関別)

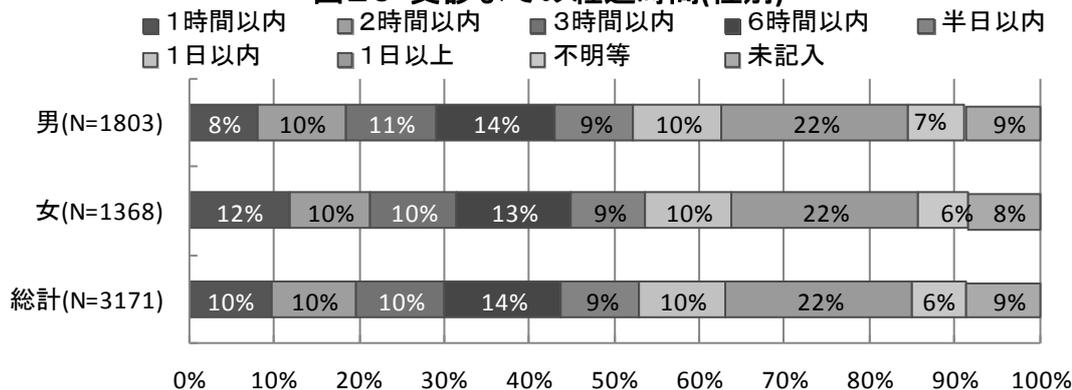


## (2) 急性期治療を担う医療機関\*における受診までの経過時間（性別）

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、男で29.1%、女31.5%であった（図20）。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図20 受診までの経過時間(性別)

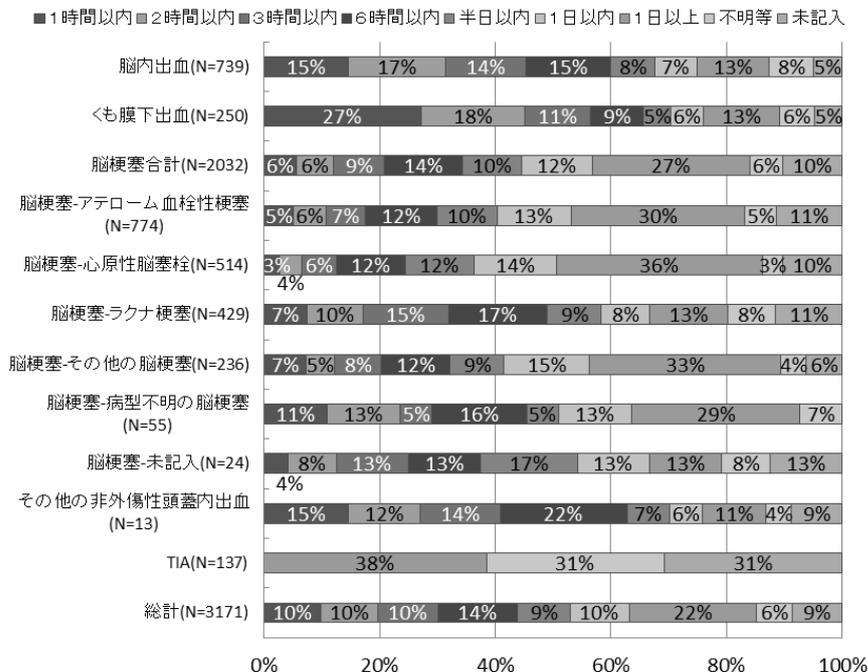


(3) 急性期治療を担う医療機関\*における受診までの経過時間（病型別）

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、くも膜下出血で56.4%と高く、次いで脳内出血では45.3%であった。一方、脳梗塞合計では、20.9%であり、他の病型に比べ発症からの経過時間が長い傾向がみられた（図21）。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図21 受診までの経過時間(病型別)

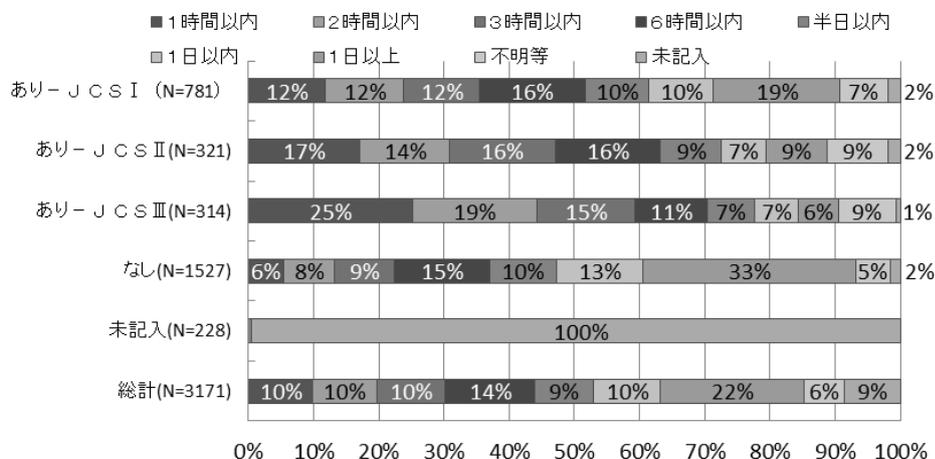


(4) 急性期治療を担う医療機関\*における受診までの経過時間（意識障害の程度別）

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、意識障害が重度であるJCS-III（刺激しても覚醒しない状態）で59.2%、次いでJCS-II（刺激すると覚醒する状態、刺激をやめると眠り込む状態）で47.0%、JCS-I（刺激しないでも覚醒している状態）で35.5%であり、重症度が高いほど受診までの時間は短かった（図22）。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図22 受診までの経過時間(意識障害の程度別)



## 2) 受診の手段

## (1) 受診の手段 (機能別医療機関別)

全医療機関における受診の手段は、救急車(消防) 43.1%、自家用車等 35.4%の順に多かった。

急性期治療を担う医療機関では、救急車(消防及び他医療機関)による受診が 51.8%であった(表 2)。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表2 受診の手段(機能別医療機関別)

機能別医療機関	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
脳卒中の機能別医療機関合計	3762	1613 ( 42.9%)	116 ( 3.1%)	1341 ( 35.6%)	90 ( 2.4%)	602 ( 16.0%)
急性期	1552	694 ( 44.7%)	77 ( 5.0%)	507 ( 32.7%)	37 ( 2.4%)	237 ( 15.3%)
急性期及び回復期	1619	855 ( 52.8%)	16 ( 1.0%)	710 ( 43.9%)	36 ( 2.2%)	2 ( 0.1%)
回復期	591	64 ( 10.8%)	23 ( 3.9%)	124 ( 21.0%)	17 ( 2.9%)	363 ( 61.4%)
それ以外の医療機関	104	52 ( 50.0%)	0 ( 0.0%)	28 ( 26.9%)	2 ( 1.9%)	22 ( 21.2%)
総計	3866	1665 ( 43.1%)	116 ( 3.0%)	1369 ( 35.4%)	92 ( 2.4%)	624 ( 16.1%)

## (2) 急性期治療を担う医療機関\*における受診の手段 (病型別)

脳内出血及びくも膜下出血では「救急車(消防)」による受診が 7 割程度を占め、脳梗塞合計では「自家用車等」(46.2%)による受診が多かった。特に脳梗塞の細分類別に見ると、ラクナ梗塞では 62.2%、アテローム血栓性梗塞では 49.1%が自家用車等で受診していた(表 3)。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表3 受診の手段(病型別)

診断病型	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
脳内出血	739	512 ( 69.3%)	25 ( 3.4%)	161 ( 21.8%)	12 ( 1.6%)	29 ( 3.9%)
くも膜下出血	250	178 ( 71.2%)	12 ( 4.8%)	47 ( 18.8%)	4 ( 1.6%)	9 ( 3.6%)
脳梗塞合計	2032	799 ( 39.3%)	53 ( 2.6%)	938 ( 46.2%)	54 ( 2.7%)	188 ( 9.3%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	774	281 ( 36.3%)	22 ( 2.8%)	380 ( 49.1%)	10 ( 1.3%)	81 ( 10.5%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	514	286 ( 55.6%)	10 ( 1.9%)	138 ( 26.8%)	27 ( 5.3%)	53 ( 10.3%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	429	109 ( 25.4%)	9 ( 2.1%)	267 ( 62.2%)	3 ( 0.7%)	41 ( 9.6%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	236	90 ( 38.1%)	11 ( 4.7%)	112 ( 47.5%)	12 ( 5.1%)	11 ( 4.7%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	55	25 ( 45.5%)	1 ( 1.8%)	27 ( 49.1%)	2 ( 3.6%)	( 0.0%)
脳梗塞-未記入	24	8 ( 33.3%)	0 ( 0.0%)	14 ( 58.3%)	( 0.0%)	2 ( 8.3%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	13	2 ( 15.4%)	1 ( 7.7%)	8 ( 61.5%)	( 0.0%)	2 ( 15.4%)
TIA	137	58 ( 42.3%)	2 ( 1.5%)	63 ( 46.0%)	3 ( 2.2%)	11 ( 8.0%)
総計	3171	1549 ( 48.8%)	93 ( 2.9%)	1217 ( 38.4%)	73 ( 2.3%)	239 ( 7.5%)

## (3) 急性期治療を担う医療機関\*における受診の手段 (意識障害の程度別)

意識障害の程度が重度である JCS-III では 88.2%が救急車(消防)と最も多く、軽度である JCS-I では 28.8%が自家用車で受診していた(表 4)。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表4 受診の手段(意識障害の程度別)

意識障害	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
あり-JCS I	781	499 ( 63.9%)	26 ( 3.3%)	222 ( 28.4%)	27 ( 3.5%)	7 ( 0.9%)
あり-JCS II	321	259 ( 80.7%)	16 ( 5.0%)	29 ( 9.0%)	13 ( 4.0%)	4 ( 1.2%)
あり-JCS III	314	277 ( 88.2%)	17 ( 5.4%)	13 ( 4.1%)	7 ( 2.2%)	( 0.0%)
なし	1527	508 ( 33.3%)	34 ( 2.2%)	946 ( 62.0%)	26 ( 1.7%)	13 ( 0.9%)
未記入	228	6 ( 2.6%)	( 0.0%)	7 ( 3.1%)	( 0.0%)	215 ( 94.3%)
総計	3171	1549 ( 48.8%)	93 ( 2.9%)	1217 ( 38.4%)	73 ( 2.3%)	239 ( 7.5%)

## 3) 機能別医療機関区分 (病型別)

病型別に機能別医療機関の登録の状況をみると、急性期治療を担う医療機関からの登録は、脳内出血 85.2%、くも膜下出血 91.0%、脳梗塞合計 80.5%で多くを占めた (表 5)。

表5 機能別医療機関別 (病型別)

診断病型	脳卒中中の機能別医療機関				それ以外の医療機関	登録数
	脳卒中中の機能別医療機関合計	急性期	急性期及び回復期	回復期		
脳内出血	850 ( 97.9%)	387 ( 44.6%)	352 ( 40.6%)	111 ( 12.8%)	18 ( 2.1%)	868
くも膜下出血	273 ( 99.3%)	136 ( 49.5%)	114 ( 41.5%)	23 ( 8.4%)	2 ( 0.7%)	275
脳梗塞合計	2449 ( 97.0%)	955 ( 37.8%)	1077 ( 42.7%)	417 ( 16.5%)	75 ( 3.0%)	2524
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	861 ( 98.0%)	321 ( 36.5%)	453 ( 51.5%)	87 ( 9.9%)	18 ( 2.0%)	879
脳梗塞-心原性脳梗塞	575 ( 98.5%)	253 ( 43.3%)	261 ( 44.7%)	61 ( 10.4%)	9 ( 1.5%)	584
脳梗塞-ラクナ梗塞	485 ( 96.2%)	178 ( 35.3%)	251 ( 49.8%)	56 ( 11.1%)	19 ( 3.8%)	504
脳梗塞-その他の脳梗塞	323 ( 98.8%)	167 ( 51.1%)	69 ( 21.1%)	87 ( 26.6%)	4 ( 1.2%)	327
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	81 ( 100.0%)	31 ( 38.3%)	24 ( 29.6%)	26 ( 32.1%)	( 0.0%)	81
脳梗塞-未記入	124 ( 83.2%)	5 ( 3.4%)	19 ( 12.8%)	100 ( 67.1%)	25 ( 16.8%)	149
その他の非外傷性頭蓋内出血	15 ( 100.0%)	6 ( 40.0%)	7 ( 46.7%)	2 ( 13.3%)	( 0.0%)	15
TIA	175 ( 95.1%)	68 ( 37.0%)	69 ( 37.5%)	38 ( 20.7%)	9 ( 4.9%)	184
総計	3762 ( 97.3%)	1552 ( 40.1%)	1619 ( 41.9%)	591 ( 15.3%)	104 ( 2.7%)	3866

## 4) 診断に用いた検査 (複数回答)

## (1) 診断に用いた検査 (機能別医療機関別)

急性期治療を担う医療機関\*では、MRI、CT、MRA の順に多かった (表 6)。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表6 診断に用いた検査 (機能別医療機関別)

機能別医療機関	登録数	MRI	MRA	CT	CTA	血管撮影	髄液検査
脳卒中中の機能別医療機関合計	3762	1894 ( 50.3%)	729 ( 19.4%)	1699 ( 45.2%)	24 ( 0.6%)	123 ( 3.3%)	8 ( 0.2%)
急性期	1552	763 ( 49.2%)	389 ( 25.1%)	803 ( 51.7%)	14 ( 0.9%)	79 ( 5.1%)	4 ( 0.3%)
急性期及び回復期	1619	1029 ( 63.6%)	334 ( 20.6%)	723 ( 44.7%)	10 ( 0.6%)	44 ( 2.7%)	4 ( 0.2%)
回復期	591	102 ( 17.3%)	6 ( 1.0%)	173 ( 29.3%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)
それ以外の医療機関	104	34 ( 32.7%)	1 ( 1.0%)	70 ( 67.3%)	2 ( 1.9%)	1 ( 1.0%)	( 0.0%)
総計	3866	1928 ( 49.9%)	730 ( 18.9%)	1769 ( 45.8%)	26 ( 0.7%)	124 ( 3.2%)	8 ( 0.2%)

機能別医療機関	登録数	頸動脈エコー	脳波	心電図	心エコー	ホルター心電図
脳卒中中の機能別医療機関合計	3762	161 ( 4.3%)	13 ( 0.3%)	629 ( 16.7%)	185 ( 4.9%)	68 ( 1.8%)
急性期	1552	141 ( 9.1%)	6 ( 0.4%)	454 ( 29.3%)	144 ( 9.3%)	48 ( 3.1%)
急性期及び回復期	1619	20 ( 1.2%)	1 ( 0.1%)	109 ( 6.7%)	11 ( 0.7%)	4 ( 0.2%)
回復期	591	( 0.0%)	6 ( 1.0%)	66 ( 11.2%)	30 ( 5.1%)	16 ( 2.7%)
それ以外の医療機関	104	8 ( 7.7%)	( 0.0%)	6 ( 5.8%)	7 ( 6.7%)	1 ( 1.0%)
総計	3866	169 ( 4.4%)	13 ( 0.3%)	635 ( 16.4%)	192 ( 5.0%)	69 ( 1.8%)

## (2) 急性期治療を担う医療機関\*における診断に用いた検査 (病型別)

脳出血及びくも膜下出血では CT が 8 割以上と多く、脳梗塞合計では MRI が 75.3%と多かった (表 7)。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表7 診断に用いた検査 (病型別)

診断病型	登録数	MRI	MRA	CT	CTA	血管撮影	髄液検査
脳内出血	739	121 ( 16.4%)	48 ( 6.5%)	652 ( 88.2%)	5 ( 0.7%)	18 ( 2.4%)	2 ( 0.3%)
くも膜下出血	250	33 ( 13.2%)	26 ( 10.4%)	219 ( 87.6%)	12 ( 4.8%)	79 ( 31.6%)	3 ( 1.2%)
脳梗塞合計	2032	1531 ( 75.3%)	606 ( 29.8%)	607 ( 29.9%)	7 ( 0.3%)	23 ( 1.1%)	3 ( 0.1%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	774	580 ( 74.9%)	254 ( 32.8%)	211 ( 27.3%)	4 ( 0.5%)	15 ( 1.9%)	1 ( 0.1%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	514	366 ( 71.2%)	145 ( 28.2%)	167 ( 32.5%)	( 0.0%)	2 ( 0.4%)	( 0.0%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	429	341 ( 79.5%)	114 ( 26.6%)	108 ( 25.2%)	1 ( 0.2%)	( 0.0%)	( 0.0%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	236	182 ( 77.1%)	66 ( 28.0%)	98 ( 41.5%)	2 ( 0.8%)	5 ( 2.1%)	1 ( 0.4%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	55	42 ( 76.4%)	25 ( 45.5%)	22 ( 40.0%)	( 0.0%)	1 ( 1.8%)	1 ( 1.8%)
脳梗塞-未記入	24	20 ( 83.3%)	2 ( 8.3%)	1 ( 4.2%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	13	4 ( 30.8%)	( 0.0%)	9 ( 69.2%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)
TIA	137	103 ( 75.2%)	43 ( 31.4%)	39 ( 28.5%)	( 0.0%)	3 ( 2.2%)	( 0.0%)
総計	3171	1792 ( 56.5%)	724 ( 22.8%)	1596 ( 50.3%)	26 ( 0.8%)	124 ( 3.9%)	8 ( 0.3%)

診断病型	登録数	頸動脈エコー	脳波	心電図	心エコー	ホルター心電図
脳内出血	739	5 ( 0.7%)	1 ( 0.1%)	105 ( 14.2%)	4 ( 0.5%)	( 0.0%)
くも膜下出血	250	( 0.0%)	( 0.0%)	63 ( 25.2%)	( 0.0%)	( 0.0%)
脳梗塞合計	2032	144 ( 7.1%)	5 ( 0.2%)	373 ( 18.4%)	141 ( 6.9%)	51 ( 2.5%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	774	66 ( 8.5%)	1 ( 0.1%)	67 ( 8.7%)	35 ( 4.5%)	16 ( 2.1%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	514	32 ( 6.2%)	1 ( 0.2%)	170 ( 33.1%)	53 ( 10.3%)	22 ( 4.3%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	429	12 ( 2.8%)	( 0.0%)	55 ( 12.8%)	12 ( 2.8%)	3 ( 0.7%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	236	30 ( 12.7%)	3 ( 1.3%)	72 ( 30.5%)	34 ( 14.4%)	9 ( 3.8%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	55	3 ( 5.5%)	( 0.0%)	8 ( 14.5%)	6 ( 10.9%)	1 ( 1.8%)
脳梗塞-未記入	24	1 ( 4.2%)	( 0.0%)	1 ( 4.2%)	1 ( 4.2%)	( 0.0%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	13	( 0.0%)	( 0.0%)	1 ( 7.7%)	( 0.0%)	( 0.0%)
TIA	137	12 ( 8.8%)	1 ( 0.7%)	21 ( 15.3%)	10 ( 7.3%)	1 ( 0.7%)
総計	3171	169 ( 5.3%)	7 ( 0.2%)	569 ( 17.9%)	162 ( 5.1%)	53 ( 1.7%)

## (3) 急性期治療を担う医療機関\*における診断に用いた検査（意識障害の程度別）

重症度が高くなるとCTが多く、重症度が低くなるとMRIが多くなる傾向があった(表8)。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表8 診断に用いた検査(意識障害の程度別)

意識障害	登録数	MRI	MRA	CT	CTA	血管撮影	髄液検査
あり-JCS I	781	431 ( 55.2%)	171 ( 21.9%)	457 ( 58.5%)	7 ( 0.9%)	33 ( 4.2%)	1 ( 0.1%)
あり-JCS II	321	148 ( 46.1%)	60 ( 18.7%)	211 ( 65.7%)	4 ( 1.2%)	17 ( 5.3%)	( 0.0%)
あり-JCS III	314	81 ( 25.8%)	24 ( 7.6%)	242 ( 77.1%)	7 ( 2.2%)	20 ( 6.4%)	4 ( 1.3%)
なし	1527	1130 ( 74.0%)	468 ( 30.6%)	616 ( 40.3%)	6 ( 0.4%)	53 ( 3.5%)	3 ( 0.2%)
未記入	228	2 ( 0.9%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)
総計	3171	1792 ( 56.5%)	723 ( 22.8%)	1526 ( 48.1%)	24 ( 0.8%)	123 ( 3.9%)	8 ( 0.3%)

意識障害	登録数	頸動脈エコー	脳波	心電図	心エコー	ホルター心電図
あり-JCS I	781	34 ( 4.4%)	4 ( 0.5%)	180 ( 23.0%)	43 ( 5.5%)	14 ( 1.8%)
あり-JCS II	321	9 ( 2.8%)	( 0.0%)	72 ( 22.4%)	14 ( 4.4%)	6 ( 1.9%)
あり-JCS III	314	4 ( 1.3%)	2 ( 0.6%)	60 ( 19.1%)	4 ( 1.3%)	( 0.0%)
なし	1527	114 ( 7.5%)	1 ( 0.1%)	251 ( 16.4%)	94 ( 6.2%)	32 ( 2.1%)
未記入	228	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)
総計	3171	161 ( 5.1%)	7 ( 0.2%)	563 ( 17.8%)	155 ( 4.9%)	52 ( 1.6%)

## 5) リハビリテーション

## (1) リハビリテーションの実施状況（病型別）

リハビリテーション「実施あり」の割合は全体の70.5%であった。病型別にみると、脳梗塞合計で73.7%と最も実施率が高かった（表9）。

表9 リハビリテーションの実施状況(病型別)

診断病型	登録数	実施	未実施	不明	未記入	実施率
脳内出血	868	634	192	1	41	73.0%
くも膜下出血	275	172	92		11	62.5%
脳梗塞合計	2524	1859	429	2	234	73.7%
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	879	688	99		92	78.3%
脳梗塞-心原性脳梗塞	584	429	97		58	73.5%
脳梗塞-ラクナ梗塞	504	367	91		46	72.8%
脳梗塞-その他の脳梗塞	327	213	88		26	65.1%
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	81	57	23		1	70.4%
脳梗塞-未記入	149	105	31	2	11	70.5%
その他の非外傷性頭蓋内出血	15	6	6		3	40.0%
TIA	184	54	113	1	16	29.3%
総計	3866	2725	832	4	305	70.5%

## (2) 急性期治療を担う医療機関\*におけるリハビリテーションの実施状況（意識障害の程度別）

リハビリテーションの実施率では、意識障害の程度が軽度であるJCS Iで84.0%と最も高く、重度であるJCS IIIで43.0%と最も低かった（表10）。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表10 リハビリテーションの実施状況(意識障害の程度別)

意識障害	登録数	実施	未実施	不明	未記入	実施率
あり-JCS I	781	656	122		3	84.0%
あり-JCS II	321	253	65		3	78.8%
あり-JCS III	314	135	178	1		43.0%
なし	1527	1203	319	1	4	78.8%
未記入	228	3			225	1.3%
総計	3171	2250	684	2	235	71.0%

## (3) リハビリテーションの実施状況（機能別医療機関別）

急性期及び回復期医療機関の実施率は78.5%、回復期医療機関は75.0%と高い傾向があった（表11）。

表11 リハビリテーションの実施状況(機能別医療機関別)

診断病型	登録数	実施	未実施	不明	未記入	実施率
脳卒中の機能別医療機関合計	3762	2693	784	2	283	71.6%
急性期	1552	979	340	1	232	63.1%
急性期及び回復期	1619	1271	344	1	3	78.5%
回復期	591	443	100		48	75.0%
それ以外の医療機関	104	32	48	2	22	30.8%
総計	3866	2725	832	4	305	70.5%

## (4) リハビリテーションの種類別実施状況（病型別）

リハビリテーションの各種類別にみた状況（複数回答）を表12に示した。理学療法の実施率は2,595件（67.1%）であるのに対し、言語療法は1,203件（31.1%）であった。

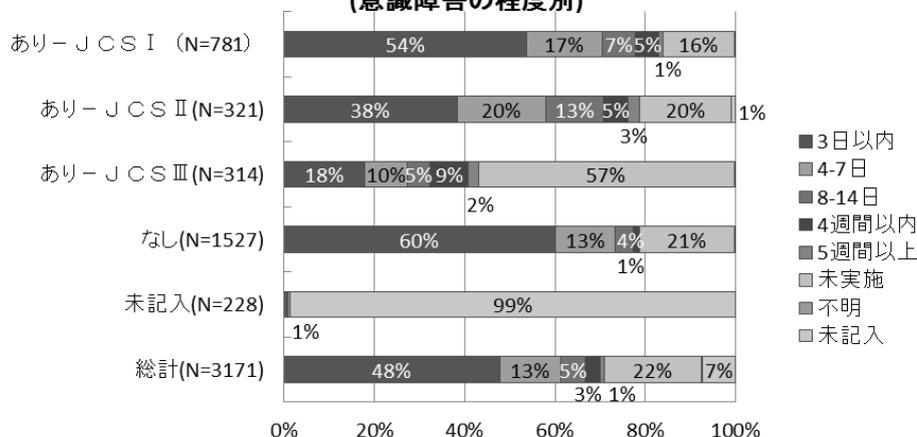
表12 リハビリテーションの種類別実施状況(病型別)

診断病型	登録数	理学療法	作業療法	言語療法
脳内出血	868	607 ( 69.9%)	520 ( 59.9%)	314 ( 36.2%)
くも膜下出血	275	164 ( 59.6%)	132 ( 48.0%)	62 ( 22.5%)
脳梗塞合計	2524	1770 ( 70.1%)	1394 ( 55.2%)	809 ( 32.1%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	879	659 ( 75.0%)	549 ( 62.5%)	323 ( 36.7%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	584	410 ( 70.2%)	332 ( 56.8%)	217 ( 37.2%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	504	344 ( 68.3%)	283 ( 56.2%)	113 ( 22.4%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	327	198 ( 60.6%)	145 ( 44.3%)	94 ( 28.7%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	81	54 ( 66.7%)	44 ( 54.3%)	29 ( 35.8%)
脳梗塞-未記入	149	105 ( 70.5%)	41 ( 27.5%)	33 ( 22.1%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	15	6 ( 40.0%)	1 ( 6.7%)	( 0.0%)
TIA	184	48 ( 26.1%)	33 ( 17.9%)	18 ( 9.8%)
総計	3866	2595 ( 67.1%)	2080 ( 53.8%)	1203 ( 31.1%)

## (5) 急性期治療を担う医療機関\*におけるリハビリテーション開始までの日数

入院日から3日以内のリハビリテーション開始は47.9%であった。意識障害の有無別にみると、3日以内の開始は「意識障害なし」の群で60.1%を占めた。また、「意識障害あり」のうち最も重度であるJCSⅢの群でも、17.8%で3日以内のリハビリテーションが開始されていた（図23）。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

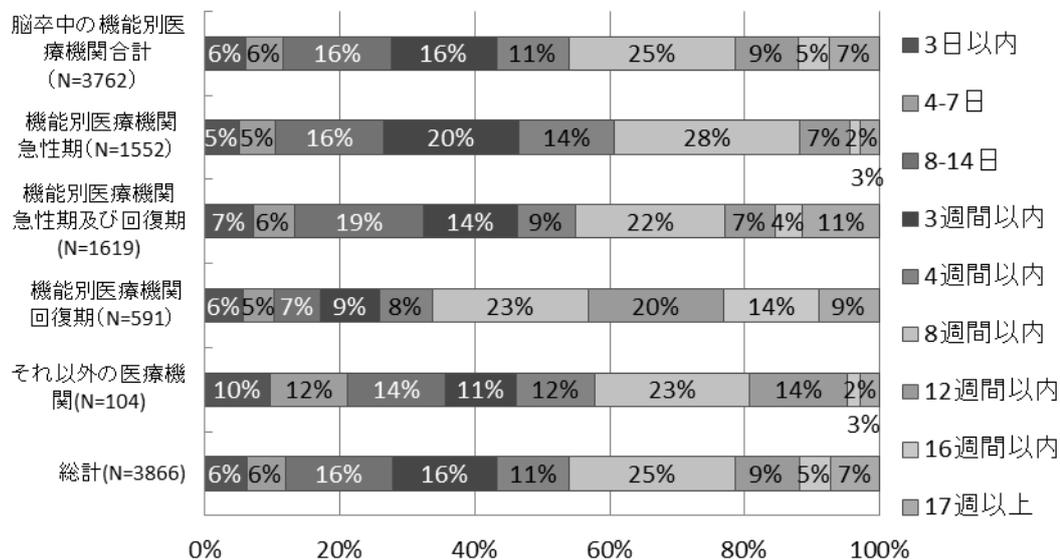
図23 リハビリテーション開始までの日数  
(意識障害の程度別)

## 6) 入院から退院までの日数

## (1) 入院から退院までの日数 (機能別医療機関別)

急性期医療機関では、入院から 4 週間以内に 60.7%が退院しているが、回復期医療機関では 33.7%であった (図 24)。

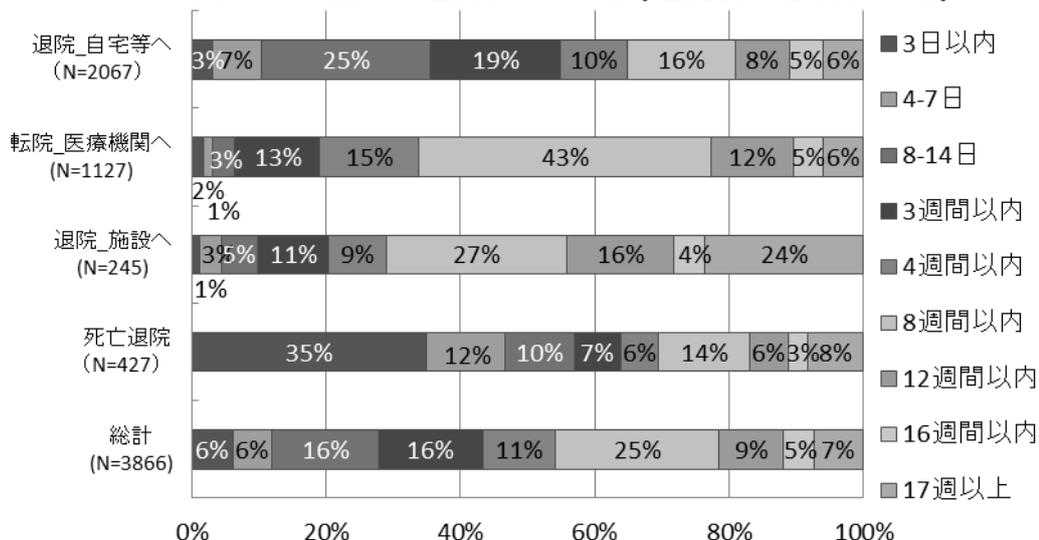
図 24 入院から退院までの日数(機能別医療機関別)



## (2) 入院から退院までの日数 (退院後の患者転帰別)

自宅退院は、入院から 3 週間以内が 55.0%であった。医療機関への転院は、入院から 8 週間以内が 77.3%を占めた (図 25)。

図 25 入院から退院までの日数(退院後の患者転帰別)

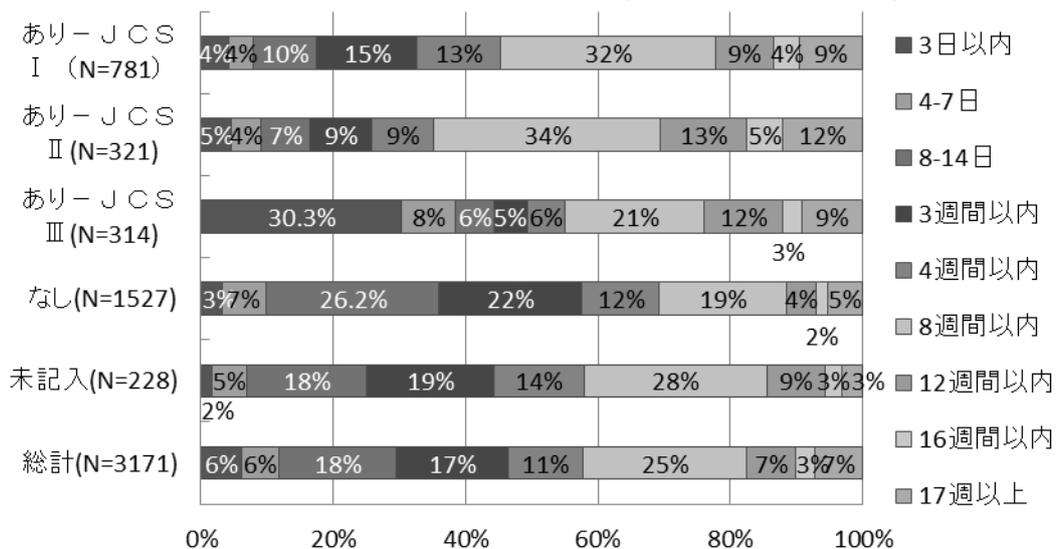


(3) 急性期治療を担う医療機関\*における入院から退院までの日数（意識障害の程度別）

入院から4週間以内の退院が全体の57.7%を占めた。入院から4週間以内の退院を意識障害の有無別にみると、「意識障害なし」では69.3%と最も多かった。一方、JCSⅢの群においては、入院日から3日以内の退院が30.3%で、全て死亡退院だった（図26）。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図26 入院から退院までの日数(意識障害の程度別)



## 7) 退院後の患者転帰

退院後の患者転帰の状況は図 27 のとおりであった。自宅への退院は全体の 53.5%を占め、次いで医療機関への転院が 29.2%であった。病型別にみると、自宅への退院率が高かったのは TIA (91.8%) であった。

自宅への退院について、機能別医療機関別では、回復期の機能別医療機関が 70.9%と多かった (図 28)。

図 27 退院後の患者転帰(病型別)

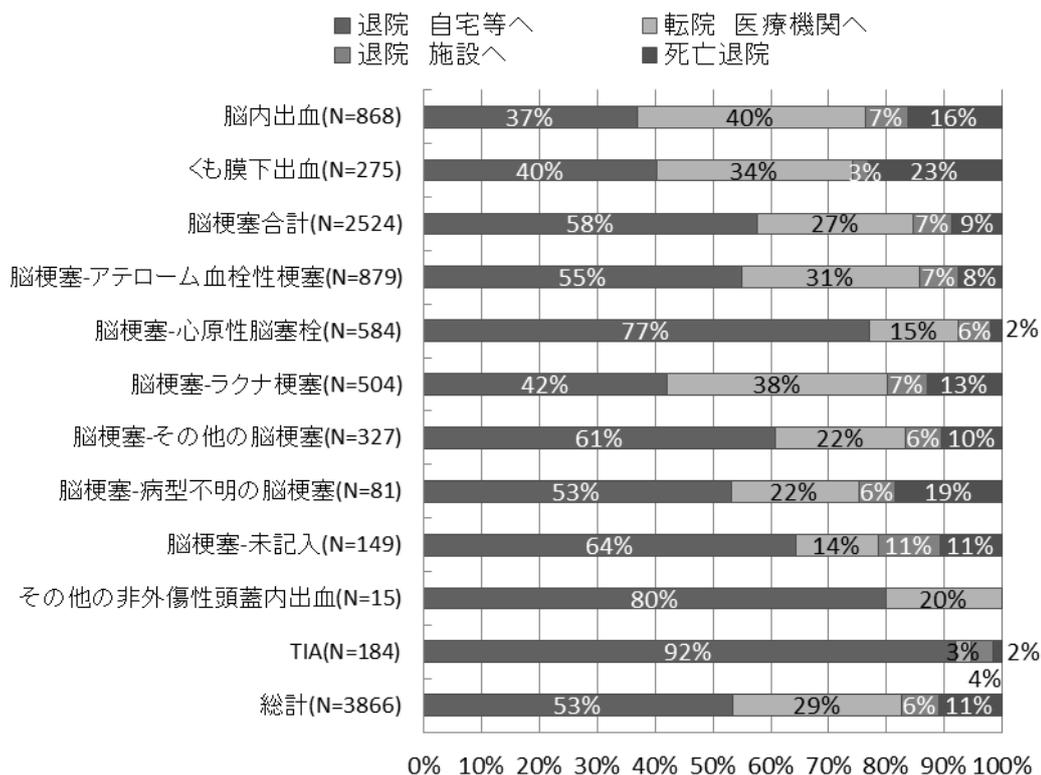
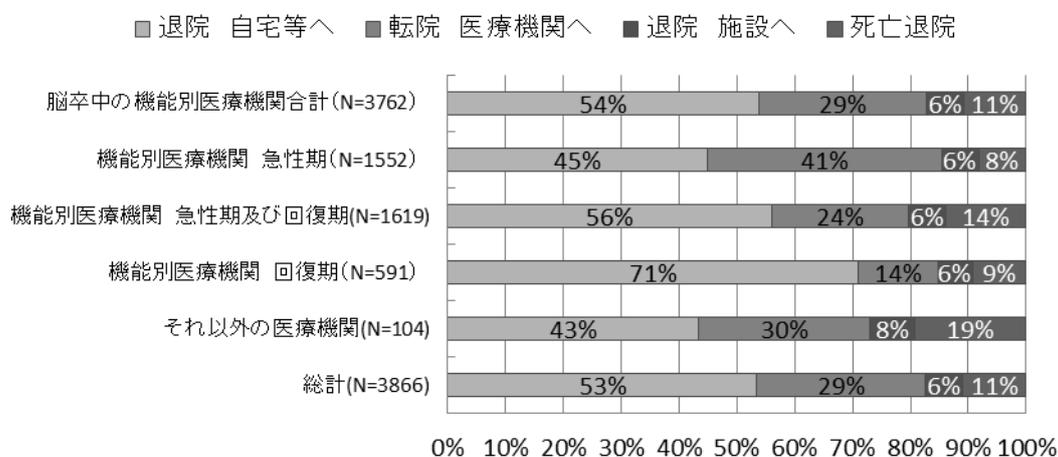


図 28 退院後の患者転帰(機能別医療機関別)



## 6 発症時合併症の状況

性別年齢階級別にみた発症時の合併症（高血圧、糖尿病、脂質異常症、心房細動）の状況は図 29～32 のとおりであった。

図29 発症時の合併症(高血圧あり)

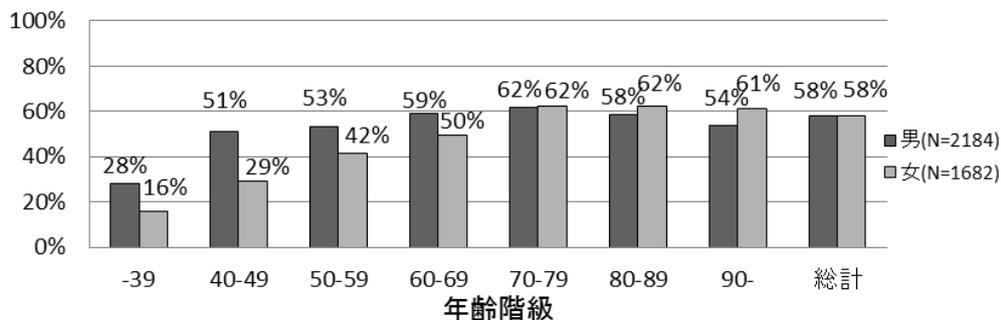


図30 発症時の合併症(糖尿病あり)

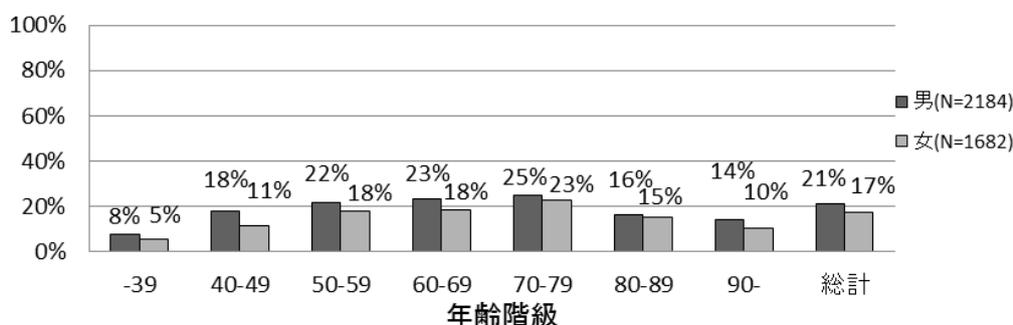


図31 発症時の合併症(脂質異常あり)

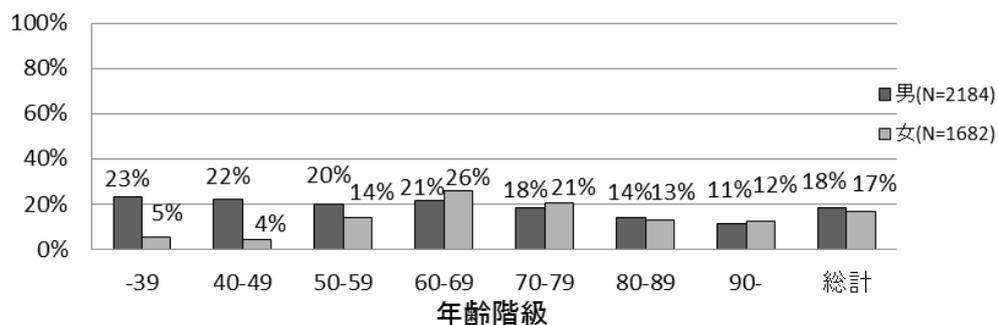
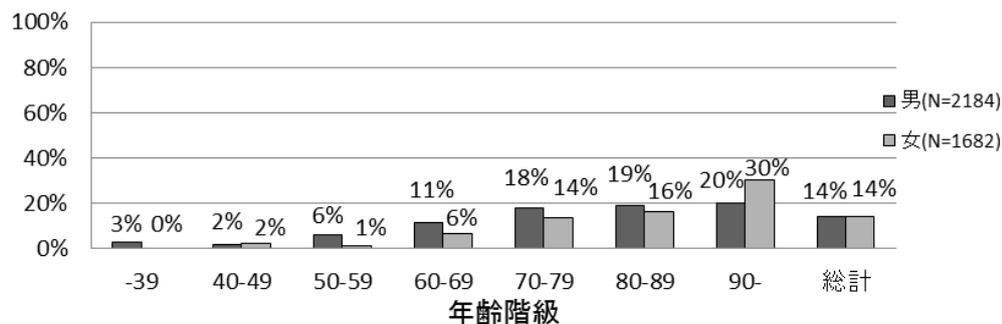


図32 発症時の合併症(心房細動あり)



7 生活習慣等の状況

1) 喫煙習慣

性別年齢階級別にみた発症時の喫煙習慣の状況は、「発症まで喫煙あり」が男で 28.2%、女で 6.5%、「過去に喫煙あり」が男で 26.8%、女で 4.8%であった (図 33・34)。

病型別にみた喫煙習慣の状況は図 35、急性期治療を担う医療機関\*における意識障害の程度別は図 36 のとおりであった。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図33 喫煙の状況(発症まで喫煙あり)

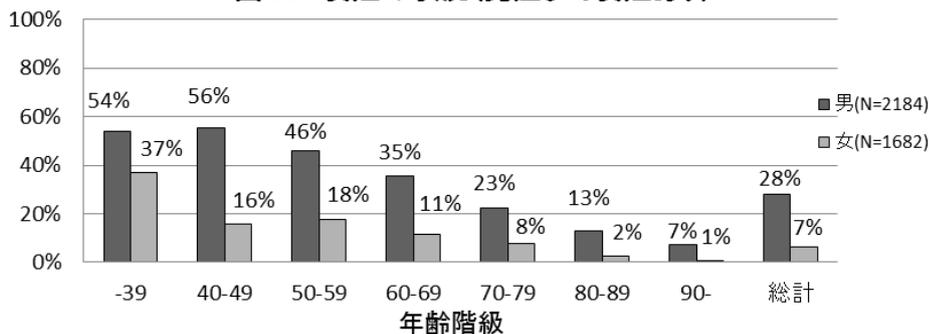


図34 喫煙の状況(過去に喫煙あり)

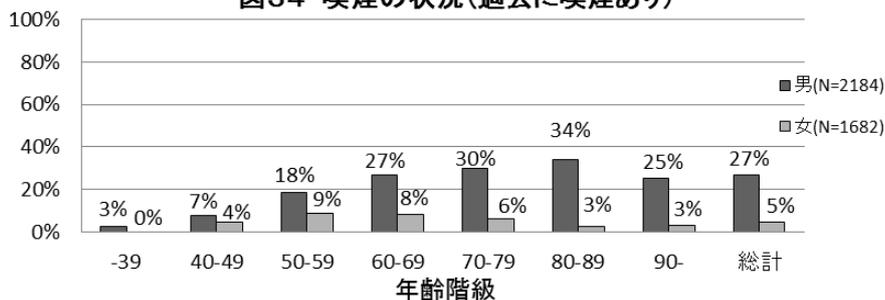


図35 発症時の喫煙習慣(病型別)

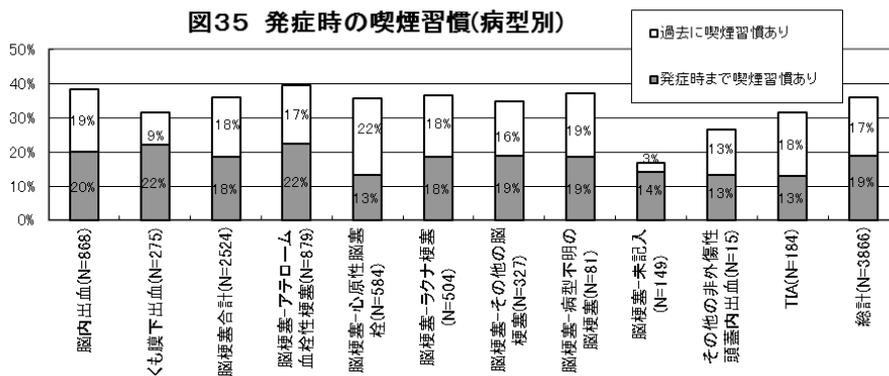
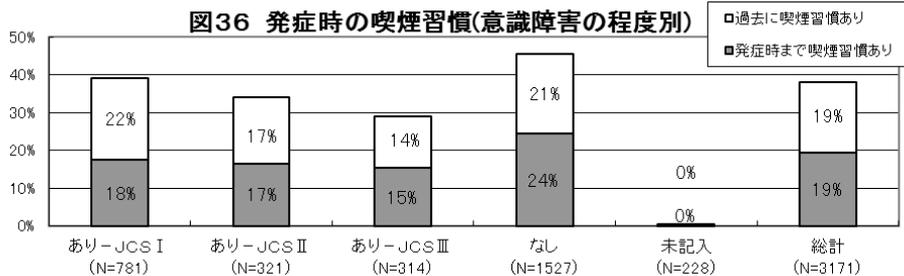


図36 発症時の喫煙習慣(意識障害の程度別)

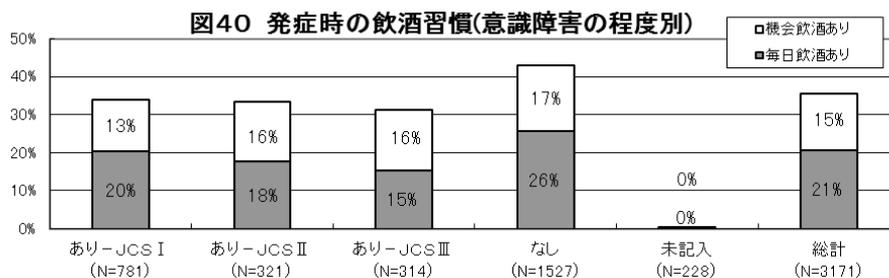
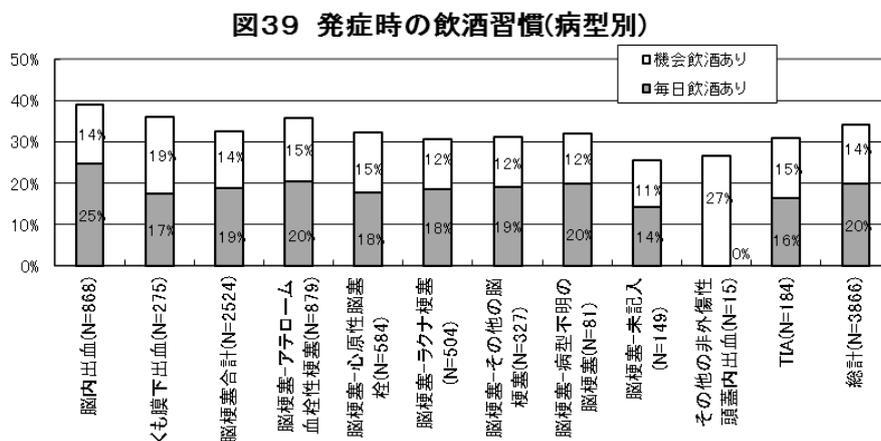
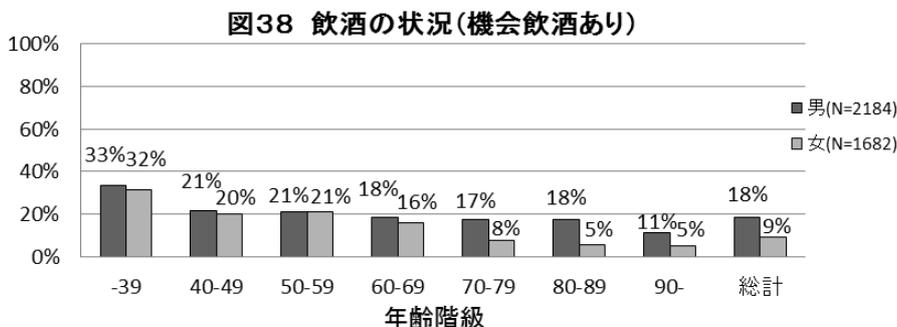
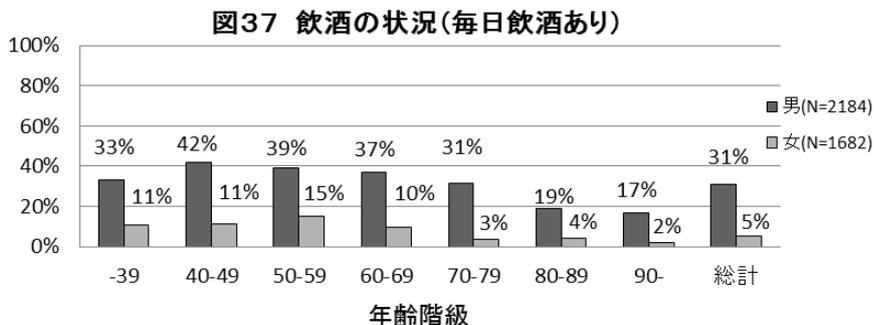


2) 飲酒習慣

性別年齢階級別にみた発症時の飲酒習慣の状況は、「毎日飲酒」が男で 30.9%、女で 5.3%、「機会飲酒」は男で 18.4%、女で 9.0%であった（図 37・38）。

病型別にみた飲酒習慣の状況は図 39、急性期治療を担う医療機関\*における意識障害の程度別は図 40 のとおりであった。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

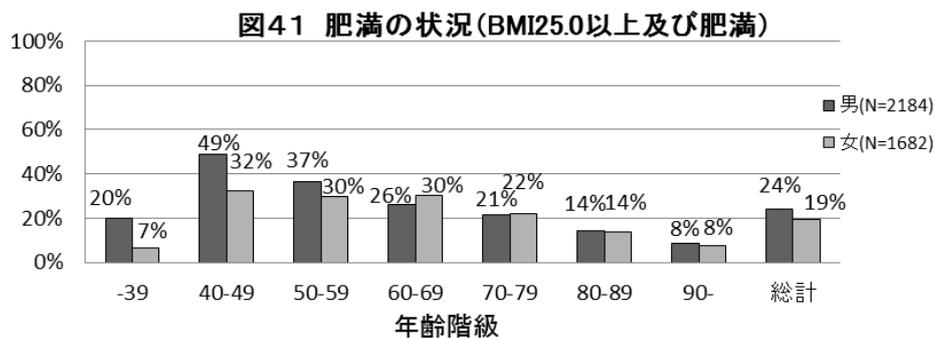


## 3) 肥満

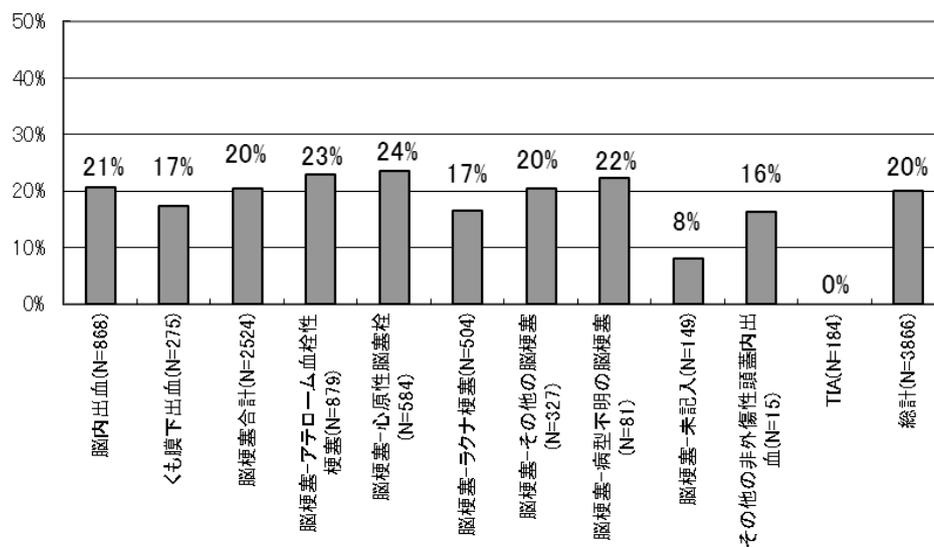
性別年齢階級別にみた BMI25.0 以上及び肥満ありの者の割合は男で 24.0%、女で 19.2%であった (図 41)。

病型別にみた肥満の状況は図 42、急性期治療を担う医療機関\*における意識障害の程度別では図 43 のとおりであった。

\*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計



**図42 肥満の状況(病型別)**



**図43 肥満の状況(意識障害の程度別)**

